



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

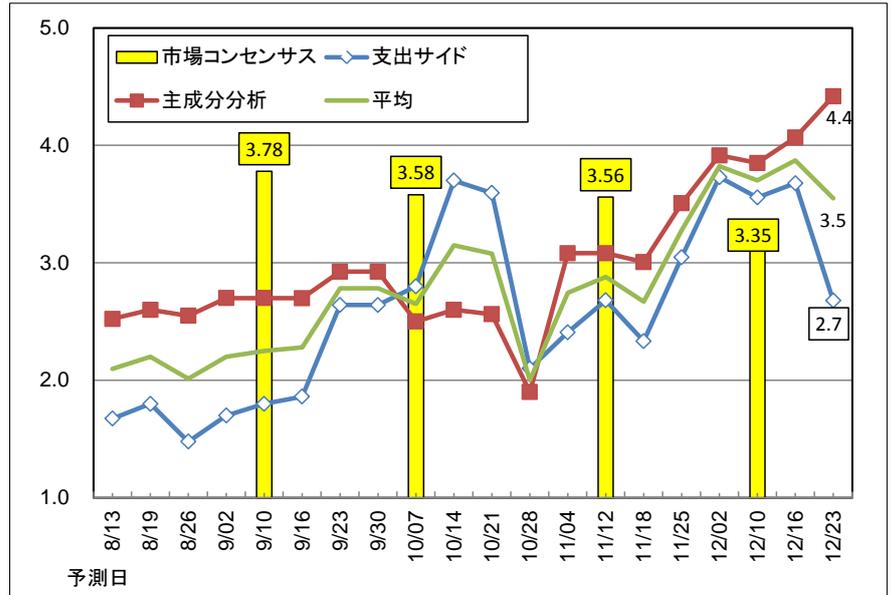
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年12月23日)

ポイント

- ▶今回更新されたデータは、11月の貿易統計、10月の毎月勤労統計(確報値)及び建設総合統計である。また日銀短観12月調査結果が発表された。
- ▶日銀12月短観によれば、内需主導の景気回復により、景況感の改善は中小企業にも広がっている。
- ▶10月の公共工事(季節調整値)は前月比+1.3%増加し2ヵ月連続のプラス。10月実績は7-9月平均比+2.1%と拡大のスピードは幾分減速。
- ▶11月の貿易収支(季節調整値)は3ヵ月連続の赤字となり、前月比+23.9%拡大し、2ヵ月ぶりのプラス。貿易赤字の10-11月平均は7-9月期平均を+25.1%上回り、縮小傾向がみられない。
- ▶これらのデータを更新した今週の支出サイドモデルは、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.7%と予測する。先週の成長率予測(+3.7%)から大幅下方修正である。10-12月期、景気は内需拡大に支えられているが、純輸出の回復は道遠しである。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



<10-12月期、景気は内需拡大に支えられているが、純輸出の回復は道遠し>

先週(12/16-12/20)に更新されたデータは、11月の貿易統計、10月の毎月勤労統計(確報値)、全産業供給指数、全産業活動指数、建設総合統計及び景気動向指数(改訂値)である。また16日に日銀短観12月調査結果が発表された。これらのデータは公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測に影響を与える。

日銀12月短観では、中小企業非製造業の業況判断DIが1992年2月調査以来のプラスに転じた。内需主導の景気回復により、景況感の改善は中小企業にも広がっている。

10月の公共工事(季節調整値: APIR 推計)は前月比+1.3%増加し2ヵ月連続のプラス。10月実績は7-9月平均比+2.1%と拡大のスピードは幾分減速。実績値は事前予測を上回ったため、10-12月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方修正された。

11月の貿易収支(季節調整値)は33ヵ月連続の赤字となり、前月比+23.9%拡大した。2ヵ月ぶりのプラス。結果、10-11月貿易赤字(平均)は7-9月期平均を+25.1%上回り、縮小傾向がみられない。結果、10-12月期の実質財貨・サービス輸出の予測値は先週から下方修正、同輸入の予測値は上方修正されたため、実質純輸出の予測値は先週から大幅に下方修正された。

これらのデータを更新した今週(12/23)の支出サイドモデルは、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.7%と予測する。先週の成長率予測(+3.7%)から大幅下方修正である。10-12月期、景気は内需拡大に支えられているが、純輸出の回復は道遠しである。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690